

## 第1回 岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会議事概要

日時：5月16日（月） 10時30分～12時00分

場所：弘前市民文化交流館（ヒロロ4階ホール）

委員出席：弘前市長、五所川原市長、つがる市長、平川市長、藤崎町長、板柳町長、鶴田町長、中泊町長、田舎館村長、青森地方気象台長、青森県県土整備部長（理事代理）、青森県危機管理局長、青森河川国道事務所長、津軽ダム工事事務所長、浅瀬石川ダム管理所長

報道機関：東奥日報弘前支社、陸奥新報社、（株）青森テレビ

（1）設立趣意書について説明し意見、質問を受ける。

○田舎館村長

・水の源である黒石市、大鰐町、西目屋村が参画していない理由は。

●青森河川国道事務所

・当初は直轄沿川の市町村で立ち上げをさせて頂きたいと考えています。

・地域住民からすれば直轄、指定の区別はないことから、頂いたご意見も踏まえて第2回協議会からは考えていきたいと思っています。

●青森県県土整備部（理事）

・県としても大変重要な協議会であると考えており、県管理区間も対象に、今後協議会に参加していただきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

○弘前市長

・住民が自らリスクを察知し主体的に避難するための、より実効性のある「住民目線のソフト対策」への転換とありますが、国、県、市町村が連携していく上で実効性のあるものにするには、県の出先機関が機能しないと連携できないのでなんとか参加を願いをしたい。

●青森河川国道事務所

・事務局の方で検討させて頂きまして、次の協議会に諮っていききたいと思います。

（2）規約について説明し意見、質問を受ける。

○中泊町長

・どうして、十川が対象となっていないのか。

●青森河川国道事務所

・今回は直轄管理河川を対象と考えていました。今後幹事会で協議して、メンバーの拡大などを考えていきたい。

○中泊町長

・中泊町、五所川原市が一番最後の方なのでどうして十川が入っていないのか考えてしまうので、今後検討してもらいたい。

(3) 傍聴規定について説明し意見、質問を受ける。⇒異議なし

(4) 水防災意識再構築ビジョンについて説明し意見、質問を受ける。⇒異議なし

(5) 現状の水害リスク情報の取り組みについて説明し意見、質問を受ける。  
⇒異議なし

(6) 減災のための目標について説明し意見、質問を受ける。

○平川市長

- ・おおむね賛成です。H25災害の時に平川市でも浸水したが、排水ポンプ車がなくて、仙台から持ってきた。来たときには水は引いていた。
- ・ポンプ車の現状の保有台数は。

●青森河川国道事務所

- ・青森河川国道事務所では、藤崎に1台、八戸に2台
- ・東北地方整備局では各事務所で保有しているものがあり、災害時には協力要請があれば出動します。関東・鬼怒川洪水でも全国から集まっています。
- ・東北地方整備局全体で各事務所が持っているポンプ車は45台です。

○五所川原市長

- ・十川と岩木川に囲まれているのが五所川原市です。
- ・十川と岩木川が一緒に氾濫したら、多分水位は5m位まで届くのではないかと。そうすると避難する場所がない。これをどのように避難させるかが課題だ。
- ・上流の洪水情報、水位情報を早く伝達してもらいたい。

●青森河川国道事務所

- ・今回は岩木川からのはん濫を想定していますが、今後県管理区間にも拡大して行くということですので、十川からのはん濫等に対する対策も含めて検討していくこととなるものと思います。
- ・鬼怒川では、広域避難中に避難場所が浸水し、また、防災拠点となる庁舎も浸水したということもあり、隣のつくば市避難したということもありましたので、岩木川においても検討の1つとして考えていきたいと思っています。
- ・H25洪水の対応を受け、そのときの反省として、上流の水防活動を下流にも一斉に配信する取り組みをH26からやっています。また、ホットラインを活用するようにやっていきたいと思っています。

●青森県県土整備部（理事）

- ・関係機関が連携していく。広域避難も重要。避難ですから最終的には、県、市町村で何が出来るのか、どのタイミングで何が必要か、しっかり準備しておくことが重要。地域の方々と話をして考えていくことが必要だと思います。

○鶴田町長

- ・岩木川は、上流は急流。三川が合流する白子地区から緩やかに蛇行している。そのため中流部ははん濫の危険性が高い。
- ・この辺の岩木川は河川敷が広い。高水敷きを流れる洪水をスムーズに流すためにリング畑も含めてどのように対応していくべきか考えていくべき。
- ・右岸が決壊した場合、五所川原市到達する。十川に囲まれたこの地区の広域避難どうするか協議していく必要がある。よろしく願いたい。

●青森河川国道事務所

- ・中流部では高水敷きが広く、りんご園があります。そのりんご園があることにより、下草とか廻の木等をきれいにしていることから、その効果もあって洪水時にある程度流れやすくなっている。岩木川の河道計画についてもその辺を考慮して、りんご園の浸水の低減ということも含めて考えていきたいと思えます。
- ・資料－５の１６ページにダムの活用状況の資料がありますが、H25. 9の洪水の前年に板柳の堤防が完成したばかりで、その堤防でもH. W. Lを超えそうな洪水が発生した。ギリギリはん濫はしなかった訳ですが、もし、堤防が完成していなかったら、五所川原市の新十川合流付近まではん濫が広がったわけですし、その際は、板柳町、鶴田町、五所川原市に被害が拡大していくわけですし、そういった際の広域避難ということについても検討していきたいと考えています。

○弘前市長

- ・今回の協議会というのは、緊急時に慌てることのないようにキチンと対応できるようにするというので、水防意識向上社会を作るんだというイメージで考えていいんですよね。
- ・この減災のための目標というのはまさにそのとおりだと思うんですが、これを５年間、平成32年までを目途にやっていくということなんですよね。
- ・目標を達成するためには、どんな行動計画をこの５年間でやっていくのか。そのフォローアップ、PDCAをどう回していくのかという行動計画を作っていくということでもいいのか。
- ・水防意識向上社会の再構築をするための、住民目線のソフト対策を含めた我々の行動計画をしっかり作っていくというのは本当にありがたいし、是非これを進めていきたい。
- ・国、県、市町村と合わせた意識の教育が図られないと、隣の市町村との連携もうまくいきませんので、国、県がコーディネイトとして入ってくるのは非常にありがたい。よろしく願いたい。

●青森河川国道事務所

- ・今回、ご了承頂ければ、その目標に沿って具体的な対応策をたてまして、それを５年間で実施する内容を整備しまして、次回の協議会に諮っていききたいと考えています。

(7) 今後の進め方について説明し意見、質問を受ける。

○弘前市長

- ・行動計画というのは、5年間でやるわけですが、すでに一定程度整備されているものもあるわけですから、そこには全て網羅されるということになるんでしょう。
- ・それぞれの訓練であるとか、他市町村との連携であるとかが書かれてくると思うんですが、そこが具体的な訓練成果につながるし、そして地域住民の意識がどう向上してきたのかということが検証されてくるんだと思うんですね。
- ・5年間の間にPDCAを回していくという意味は、これまでの整理をして、その結果がどうなったのかというアウトプットと、地域住民の意識がどう変わっていった避難ということに対して意識の向上が図られたのかという部分のアウトカムがどうしても必要になってくるわけです。
- ・今後、全市町村が国、県とどういう意識付けでやっていくのか、どう報告を検証していくのかということが大事になってくると思いますので、1年目からスタートすると計画だと考えていますので、すばらしい計画を作って頂いて、そこからまず始めましょうという考えに基づいて計画を作って頂きたい。

○中泊町長

- ・減災のための避難行動とかいっているけれども、我々一番最後の岩木川を抱える町村とすれば、上流では堤防の嵩上げをやっている。我々の所も堤防の嵩上げもやってもらっているし、監視カメラも結構やっていただいているが。しかし、五所川原市で新十川も、旧十川も入ってくる。そうすれば旧稲垣の付近では10～15年前は浚渫もやっていたが、今はやっていないということで、川底が1.0～1.5mも上がってきている。上がってくれば水かさが増えるんじゃないかと。現に我々の所では神田橋から十三湖水戸口まで土砂が満杯になってきている。浚渫の方も同時にやってもらわないと、避難訓練もやってきているが、岩木川沿いの地域住民の方からこれをどうしてくれるんだと、木が生えてきているどうかしてほしいといわれている。これはこれで一生懸命やっていきますが、是非、そっちの方もよろしくお願いしたい。

○藤崎町長

- ・今回の協議会の立ち上げは誠に意義深いものでありまして、岩木川水系、特に我が藤崎町では平川、浅瀬石川、三本合流地点で、上流で80～100mmの雨が降れば、白子地区のリンゴ園がはん濫している。1年8ヶ月に1回の割で氾濫している。本来は一級河川の岩木川というふうになると思うんですが、川はつながっているわけで、いいたいのは、県土整備部で県内の県が管轄する全ての川で、河道掘削とか、樹木伐採とか真剣にやって頂かなければ、これからゲリラ豪雨発生した場合、これでいいのかといいたい。防災意識強化ももちろんではごさいますけれども、万が一の時でも人命が失われるような災害を無くするためにも、不断の金がかかっても努力が必要だということを一声いっておきたい。

●青森県県土整備部（理事）

- ・危機意識が強いということをお聞きいたしました。県でも、できることはしっかりと取り組んでいきます。

○つがる市長

- ・今回の協議会の設立は大変よいことだと思っています。皆さんと情報を共有していきたいと考えています。つがる市では今、五所川原市圏域の定住自立圏が誕生しまして、その中で分科会においても大規模災害の時の事が検討もされています。そういうことで広域で災害に応援することが準備されているところです。皆さんの協力を得ながらハードソフト面での対策を実施したいと考えていますので、今後もよろしくをお願いします。

○板柳町長

- ・板柳町は、岩木川と十川に挟まれていて、山もない全くの平坦地であり、大雨により川がはん濫した場合は、全域が浸水想定区域になっています。
- ・万が一想定を超える事態が発生し、大規模な洪水となった場合は、全町が浸水被害を受け、孤立状態が考えられます。
- ・先ほど鶴田町長からもありましたが、市町村の枠を超えた広域的避難を円滑に出来るように対策をしっかりと整えておく必要があると思います。
- ・いずれにしても、住民への周知、適切な対策を講ずるためにも、関係機関からの早め早めの情報提供をお願いしたいと考えています。